

[2] カゼという発作 (漢方薬の証も参考に)

桂枝湯証	葛根湯証	麻黄湯証	小青龍湯証	頭	新	虚	実
脈浮緩	脈浮実	脈浮緊		熱	桂枝湯証		葛根湯証
自汗	無汗	無汗		上衝			麻黄湯証
悪風	悪風	悪風寒	悪風		小青龍湯証		
上衝		上衝					
下焦:虚			下焦:虚	毒			
	身疼	身疼		(虚)			
	項背強几几	骨節疼痛,腰痛					
	喘	喘	喘咳				
			心下:水気,寒				
			乾嘔				

c.f. 『傷寒論真髓』横田親風著 (著者は鍼灸師)

(1) 基本的には

- ①最も典型的で最も一般的な発作現象
- ②表位と上焦で邪が盛んに動いている (熱)
- ③中焦に水毒や下焦に虚 (寒)
- ④長引くと、外位や体の境目にツボが出る (c.f.[3]古い病、古いツボ。湯液は、柴胡桂枝湯証、小柴胡湯証)

(2) ツボの出やすい所

- ①表位・上焦など…熱い所に散鍼し、シコりに刺鍼
 - 1.後頸部と肩背、特に大椎の周り (大椎の周りが汗ばんでなかったら無汗→表位から汗を出させる！)
 - 2.喉 (前頸部)、鎖骨、胸上部 (膈中から中府の肋間、肋骨1本上がるごとに外よりにツボ)
- ②①と経絡的に関連する所
 - 1.手陽経：合谷,手三里 (ノボセ,頭痛)、後溪 (熱に灸)
 - 2.手陰経：列缺、上尺沢 (長引く咳)
 - 3.足陽経：冷えに足甲3-4間の灸
 - 4.足陰経：喉の痛みに然谷・節紋への灸、鍼なら照海・大鐘
- ③腹など①以外の胴体…急性期には刺鍼しなくてもよい
 - 1.腹、特に下焦の虚
 - 2.中焦の水毒…背の7-9-11付近 (冷) に深刺し気を巡らせる
- ④手足の強張りや突っ張りは、手足甲に引く

葛根湯証、麻黄湯証など

自己養生 (なったかな?の初期にする)

1. 表位の症状：手指井穴に粒鍼・銀 (糸状灸)
ノボセ、前頭部痛……親指・井穴
発熱、後頭部肩項の張り…小指・井穴
2. 喉の痛み：足湯、然谷にホッカイロ
3. 熱い汁物 (トロミ、香り、(+辛い))
(梅醤番、ネギ湯+くたくた素麺)
梅醤番：梅干、生姜、醤油、番茶
ネギ湯：刻みネギ、生姜、出汁
(筆者は+唐辛子やワサビ)
(シナモン、シソ、ミントなども)
(葛根湯エキス剤は湯で！
+葛根&シナモン)

(3) 手順

- ①急性期でも症状が落ち着いていれば、表位や上焦の邪を出した後に冷えに灸 (腹の対処はしない！)
仰向け(手甲→手陰陽→足陰陽)(→うつ伏せ)→座位(肩頸→喉胸→頭散鍼→手甲)→灸(然谷、足甲3-4など)
*症状が盛んで座位が無理なら、仰向けで喉胸、うつ伏せで肩や後頸部&頭の散鍼&手甲
- ②長引いているときには、慢性期の型でツボを考慮+灸
・中焦の水毒や下焦の虚、体側面など古い病への対処をする